

IBMクラウド・アプリケーション開発サービス

新しいビジネスやサービスの本格展開を視野にPoC (概念実証) を支援



変化の激しい時代、新しいビジネスやサービスの立ち上げにはスピードが重要です。

特に顧客とのエンゲージメント強化を担うSoE^{※1}のアプリケーション開発では、

以前のように数年単位の時間をかけることはできません。

そこで最近では、クイックなビジネスモデルを実現・検証するために、

PoC (Proof of Concept:概念実証) による段階的アプローチを採用する企業が増えています。

まずプロトタイプをつくり、その結果を見た上で本番アプリケーション開発へと進むというやり方です。

こうしたニーズに対応するのが、IBMの「クラウド・アプリケーション開発サービス」です。

※1 SoE (Systems of Engagement) : 顧客をはじめとする人々との関係をつくり支えるためのシステム。社内システムだけでなく、ソーシャルメディアやクラウド上で展開される各種アプリなど外部システムとの連携が重視される

素早くプロトタイプをつくり 評価プロセスを経て本格展開する

クラウドの急速な進化を受け、これを積極的に取り入れて新しいビジネスやサービスの創造を目指す動きが広がっています。例えば、クラウド上でパートナー企業と連携して、新しいビジネスモデルを構築したり、新しい顧客接点をつくるため、高度なデジタルマーケティングを推進するためにクラウドを活用する企業が増えています。こうしたチャレンジの有用性検討やリスク軽減のために、近年PoCを実施する企業が少なくありません。PoCでは、まずプロトタイプをつくり、実際に動かしてみ、短サイクルで評価と修正を繰り返します。PoCアプローチを実践する場として、クラウドのプラットフォームは非常に適しているのです。

このような企業のニーズを受け止め、IBMはクラウド・アプリケーション開発サービスを提供しています。特に注力しているのは、クラウド環境の特性が最大限に発揮できるSoEの分野です。顧客に対して積極的に働きかけ、顧客とのエンゲージメントを強化するためのシステムづくりを、IBMはお客様のパートナーとして推進しています。

企業にとってPoCの目的は大きく2つあります。1つはTime to Marketの短縮です。自社ならではの価値を織り交ぜた新サービスを素早く実現し、競争力の向上を目指す企業にとって、PoCは最適な場といえるでしょう。もう1つはDevOpsの実践です。開発から運用保守までをクラウド上で実行することにより、低コストのワークフローを実現するとともに迅速なサービスの改善を図ることができます。

クラウド・アプリケーション開発サービスにおいて、IBM Bluemixはプラットフォームとしての役割を担います。IBM Watsonによる各種データ分析、オンプレミスや他のクラウド環境との統合など、Bluemixの持つ多様なサービスメニューを活用することで、素早くプロトタイプを開発し、評価フェーズに移行することが可能です。

PoCは、通常プロトタイプ作成に1カ月程度、評価や微調整を含めて3カ月程度を要します。一定以上の成果を収めれば、投資判断を経て本格的なサービス展開を目指すことになります。本格展開への移行を支えるビジネス基盤としても、拡張性の高い

クラウドには大きなメリットがあります。

IBMがフォーカスしているのは、お客様企業におけるビジネス価値の創出です。お客様のビジネス環境や戦略に応じた最適な形で、PoCの実践をサポートしています。

顧客からの問い合わせ対応、 ナレッジ共有などのPoC実践例

クラウド・アプリケーション開発サービスはさまざまなケースに適用できます(図)。代表的な領域はチャットボット、ブロックチェーン、IoT、デジタルナレッジ、ビジュアル&スピーチ、オープンAPIです。以下、典型的な3つの事例をご紹介します。

●チャットボット・サービスの開発：PoCでアプリケーションの有効性を確認・評価

金融業A社は、個人顧客からの商品・サービスの問い合わせに自動応答するためのアプリケーション開発において、PoCを実施しました。自動応答エンジンとしてWatson Conversationを使い、Watsonとの親和性が高くて即座に利用可能なクラウド開発環境であるBluemixを利用しました。また、IBMが長年培ったノウハウをまとめた対話シナリオ実装に関するアセットやナレッジなどを活用して、開発のスピードアップとコストの抑制を図りました。PoCを通じて、A社はプロトタイプの有効性を確認しました。その上で、現行の問い合わせ対応に比べて広範囲をカバーできること、顧客満足度の向上につながることを評価して、同社は次のステップである本番システム構築のプロジェクトをスタートさせました。

●デジタルナレッジ基盤の構築：要件に合う機能を試用しつつ実装

製造業B社は、エンジニアリング工程における多様かつ大量の業務文書類を収集し、整理/分析した上で、ナレッジの抽出/蓄積までを行えるデジタルナレッジ基盤を構築しました。同社の持つ業務文書は、発注・工程表・指図等の構造化データと、設計図面や現地画像等の非構造化データが混在している上、一品一様の製品開発等の経緯から、社内横断での情報共有が困難でした。そこで、Watson ExplorerやWatson Natural Language Classifier

などを用いたコグニティブ・プラットフォームを構築し、生産性向上/コスト削減だけでなく、ナレッジ共有を通じて顧客に対する提案のスピードアップ、品質の向上やリスクの低減を実現させました。プロジェクトの開始当初、業務要件が固まっていなかったため、プロトタイプを作成し、現場で使いながら徐々に機能を加えていくアプローチが非常に適していました。B社はBluemix上で提供される豊富なメニューから要件に合致するものをPoCで試用しながら選択することにより、基盤コスト抑制や開発スピードの加速化などのメリットを得ることができました。

● 人手による定型業務自動化：PoCで投資対効果が得られることを確認

金融業C社は従来、取引先企業から送られてくる紙の帳票と自社の集計システムとの突合業務を目検で実施しており、業務効率化が課題となっていました。帳票の電子化が検討されていましたが、取引会社数が多く開発コストが大きくなることや、従来型のOCR技術では十分な効果が期待できないという問題がありました。そこでC社は、Watson Visual Recognitionの画像識別技術を組み合わせることで、有効な解決策が得られるかどうかを検証するPoCを実施しました。アジャイル開発手法による約1週間単位の反復開発により、帳票イメージからの取引会社の判別、OCRの最適な利用ケースの検証ほか、具体的な課題が1つ1つクリアされました。C社はPoCにおける総合的な成果を高く評価し、本番アプリケーションの開発を真剣に検討しています。

既存ITとクラウド両方の知見を生かし
迅速なSoEアプリケーション開発を支援

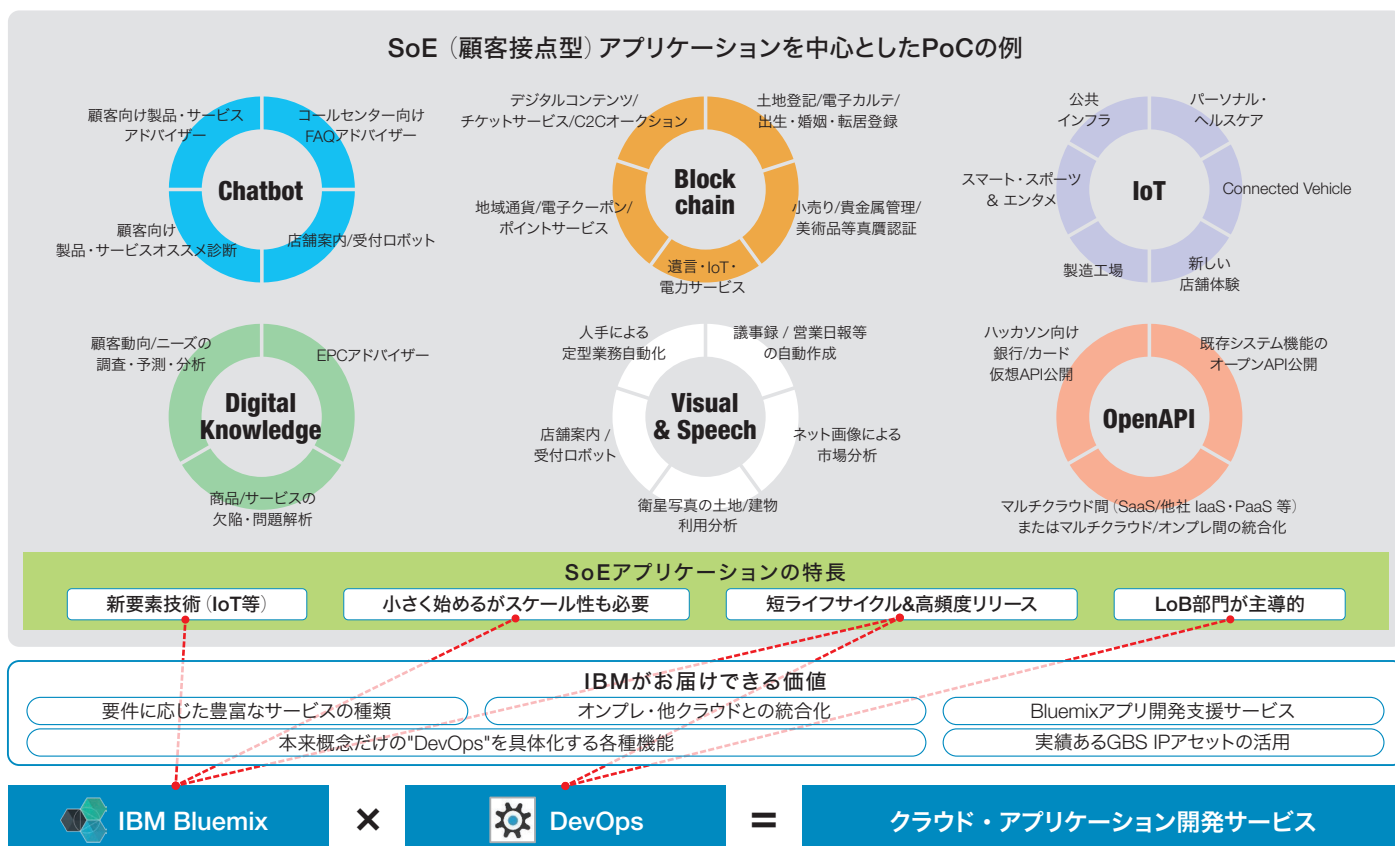
企業にとってフロンティアともいえる領域において、PoCは実施されます。新しい試み、これまでなかったサービスの実現を、ビジネスとテクノロジー両面でサポートするのがIBMのクラウド・アプリケーション開発の役割です。

PoCでは、過去から蓄積された資産も有効活用されます。既存システムやそこに格納されたデータとの連携が必要とされる場合も多く、こうしたPoCを実行するためには既存ITと最新のクラウド両方にまたがるインテグレーションのノウハウが求められます。本番アプリケーションの構築を視野に入れた場合にはなおさらです。

クラウド・アプリケーション開発サービスにおいて、IBMはBluemixの豊富なサービスメニューだけでなく、長年取り組んできたビジネスとITの知見を最大限に活用しています。幅広い経験や技術、各種アセットなどにより、オンプレミスや他のクラウドとの統合、迅速なSoEアプリケーション開発をサポートします。

PoCによるスモールスタートの先には本番アプリケーションがあり、将来的には大きな可能性が広がっています。クラウドプラットフォームの特性を生かして、他社とのエコシステムづくりへと歩を進めた企業もあります。PoCは将来に向けたビジネスモデル開発の一環ということもできるでしょう。こうした意欲的な取り組みを強力に支援することで、IBMは企業の新たな価値創造に貢献したいと考えています。

図 クラウド・アプリケーション開発サービス・SoEアプリケーション例





日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

© Copyright IBM Japan, Ltd. 2017
All Rights Reserved
07-17 Printed in Japan

IBM、IBMロゴ、ibm.com、Bluemix、IBM Watsonは、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporationの商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。

当資料の内容は発行日現在のものです。IBMによって随時変更される可能性があります。掲載されている製品・サービスはIBMがビジネスを行っているすべての国・地域でご提供可能なわけではありません。

IBMは本書の情報を「現状のまま」提供し、一切の保証を行いません。IBMは、商品性、特定目的との適合性、および第三者の権利の非侵害のあらゆる保証を含め、明示的にも黙示的にも表明保証を行いません。IBM製品は所定の契約書の条項に基づき保証されます。

当資料は一般的な助言のみを目的としています。当資料は詳細な調査または専門的判断の行使の代替とされることを意図したものではありません。当資料に依拠したことにより組織または個人が被ったいかなる損失についても、IBMは一切の責任を負わないものとします。
